P-057

薬局内での肺機能簡易検査実施の取り組みについて

田辺薬局（株）
○小川路代、佐野敦彦、井上剛、佐藤直樹、田中佑加子、石山一義、東風平秀博、町田小百合、工藤貴弘、河野一規

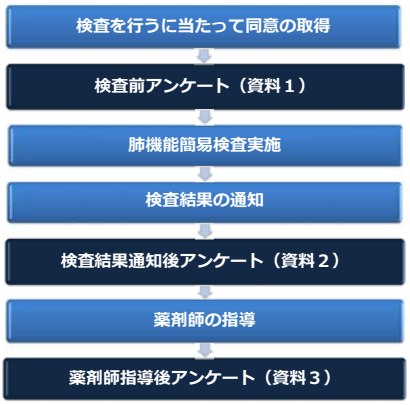
目　的

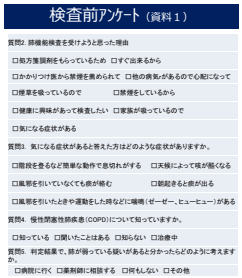
WHOによると慢性閉塞性肺疾患（COPD）は世界の死亡原因の第4位であり、将来的には罹患率・死亡率ともにますます増える事が予測されている。日本では大規模疫学調査研究にて**40歳以上のCOPD患者数は530万人と推定されたが、2011年厚労省患者調査によると治療患者数は約22万人であり未受診者が多いことが示唆されている。**COPD は症状が悪化すると患者QOLが著しく低下するとともに、不可逆的な疾患とされ治療が困難である。しかし早期発見し治療する事で呼吸機能の低下を遅らせる事が出来る。
当社では**COPDの早期発見**を目的として希望者に肺機能簡易検査を実施している。
今回、検査実施者に対して、薬局で肺機能簡易検査を受けた理由と薬剤師の指導による意識変化について調査したので報告する。

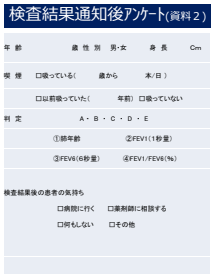
方　法

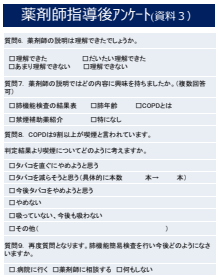
•対象店舗に肺機能簡易検査機を設置し、自ら申し出た希望者を対象として肺年齢検査およびアンケート調査を実施した（40歳未満は調査対象外とした）。尚、肺機能簡易検査機はハイ・チェッカー®を用いた。

- 調査店舗：足立江北店･川口新郷店･神田錦町店･新松戸西店･西新井西店
- 調査期間：平成27年5月～平成27年8月
- 調査手順：









アンケートは「検査前」「検査結果通知後」「薬剤師指導後」の3回実施。
○「検査前」は検査希望者の背景･現在の状況を確認
○「検査結果通知後」は検査結果を通知して気持ちの確認
○「薬剤師指導後」は薬剤師が指導を行った後の気持ちを確認

判定結果表

検査結果はハイ・チェッカー®にて
O肺年齢､FEV1（1秒量）
OFEV6(6秒量)
O FEV1/FEV6（1秒率）
から算出した
A･B･C･D･Eを判定として提示した
資料：肺年齢.ｎｅｔより抜粋

グループ	評価	評価コメント
A	異常なし（肺疾患の可能性低い）	同姓同年代の平均値に比べて数値はよいです。今後も健康を維持して下さい。
B	境界領域（現時点では問題なし）	同姓同年代の平均値に比べ数値がやや悪く、なっています。今後も定期的な呼吸機能検査を続けることをお勧めします。
C	肺疾患の疑い（要精検）	COPD の可能性は低いですが、同姓同年代の平均値に比べて数値が悪く、他の肺疾患の疑いがあります。専門医による検査をお勧めします。
D	COPDの疑い（要経過観察／生活改善）	軽症COPD の疑いがあります。現段階で自覚症状が無くても放置すると重症化する恐れがあります。専門医による再検査を受ける様にして下さい。
E	COPDの疑い（要医療／精検）	中等症以上のCOPD の疑いがあります。専門医による検査を強くお勧めします。適切な治療を早期に行う事で症状を改善し、疾患の進行を抑制することができます。

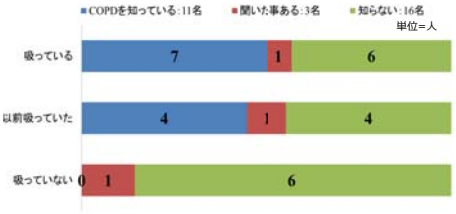
結　果

検査前アンケート結果

検査希望者の性別と年齢 N=30

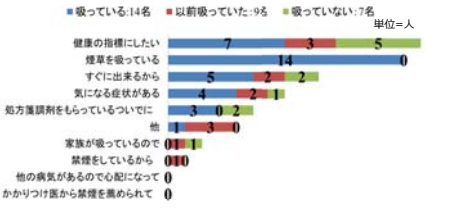
男性16名、女性14名と性別ほぼ同数で差はなかった。年代は40代が11名と多かった。

喫煙経験とCOPD認知 N=30



煙草を吸っている、吸っていた群はCOPD認知度が高く、吸っていない群はCOPDの認知度は低かった。

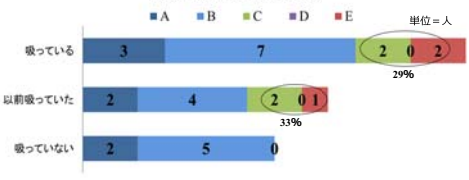
検査を受けようとした理由 N=30（複数回答）



吸っている群では、検査を受けた理由が「煙草を吸っている」が最も多かった。いずれの群でも「健康の指標にしたい」が多かった

検査通知後アンケート結果

喫煙経験と肺年齢 N=30

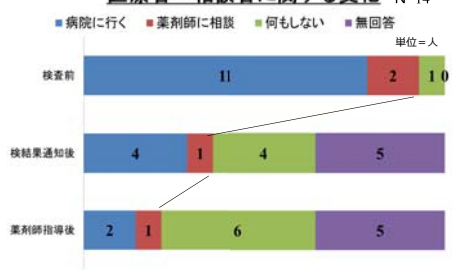


A	異常なし（肺疾患の可能性低い）
B	境界領域（現時点では問題なし）
C	肺疾患の疑い（要精検）
D	COPDの疑い（要経過観察／生活改善）
E	COPDの疑い（要医療／精検）

煙草を吸っている群の29%、以前吸っていた群の33%がC判定（肺疾患の疑い）以上であった。

喫煙者のアンケート結果

医療者へ相談者に関する変化 N=14



検査前では煙草を吸っている群の9割以上が肺に問題があると感じたら「病院へ行く」「薬剤師へ相談」と回答があった。
しかし検査結果通知後は4割以下に減った

薬剤師指導後の喫煙について N=14

薬剤師指導後の喫煙に関しては「煙草を直ぐやめる」「今後やめようと思う」「煙草の本数を減らす」の回答を合わせて8名であった。しかし「辞めない」は3名いた。

考　察

喫煙経験と肺年齢から、煙草を吸っている群の29%と、以前吸っていた群の33%がC判定（肺疾患の疑い）以上であり、**肺機能簡易検査を行うことが有意義であることが示された。**一方、肺機能簡易検査の結果、問題が無いとされた喫煙者の医療者への相談率が減少した事から、**安易な検査のみの実施については、かえって検査希望者の将来の QOL の低下を招く可能性**が示唆された。
地域医療の一端を担う「かかりつけ薬局」の役割としてCOPD早期発見に肺機能簡易検査を行う事は有効であるが、検査結果次第では「何もしない」「煙草をやめない」とCOPD予備軍を放置することになる。 COPDの9割が喫煙者であり喫煙の20%がCOPDに罹患すると言われているため、我々薬局薬剤師は**検査のみならず指導**も積極的に実施する必要があると考える。